

犯罪捜査のための心理学

富山県警察本部刑事部科学捜査研究所 主任研究官

財津 亘 (ざいつ わたる)

科学捜査研究所（通称、科捜研）は、全国の都道府県警察の付属機関で、専門分野（法医、化学、物理、文書、心理）において、犯罪捜査のための鑑定や研究を行っています。

私は、心理学専門として、ポリグラフ検査や犯罪者プロファイリングに従事している他、筆跡鑑定などの文書鑑定にも従事しています。

ポリグラフ検査

ポリグラフ検査は、呼吸運動や皮膚電気活動、心拍数などの生理反応を測定・記録すると同時に、事件に関わる質問とそうでない質問を提示して、質問に対する生理反応を比較することで、事件に関する内容を知っているかどうかを判定する鑑定手法です。一般的には「ウソ発見」で知られているポリグラフ検査ですが、実際は「記憶検査の一種」とされています。ポリグラフ検査は、人の記憶や生理反応の他、注意や動機づけなど様々な心理学的な要素が関わるので、関連する心理学分野は、認知心理学、生理心理学、精神生理学、感情心理学など多岐に渡ります。

あまり知られていませんが、日本のポリグラフ検査は、犯罪捜査への応用・研究ともに世界トップクラスといえます。また、ポリグラフ検査の結果は、我が国の公判廷において、証拠能力が認められており、科学的鑑定として確立されています。

犯罪者プロファイリング
犯罪者プロファイリングは、犯行の状況などを統計データや心理学的知見によって評価することで、犯人の属性や居住地等を推定する手法です。その

目的は、もちろん犯人の早期検挙を目指しています。犯罪者プロファイリングでは、犯罪者の心理や行動、または犯罪現場の環境や被害者との相互作用などを分析するので、犯罪心理学や性格心理学、環境心理学、社会心理学などポリグラフ検査とは異なる心理学分野が関わってきます。ちなみに、最近では、犯罪捜査に特化した分野は、捜査心理学と呼ばれています。また、心理学でも用いられる記述統計や推測統計、多変量解析も多用するので統計学も大いに関わりが深い分野といえます。

このような犯罪者プロファイリングは、犯人を特定する手法と思われるがちですが、本来は犯人の早期検挙のための効率性を重視した方法といえます。

文章の分析

最近では、テキストマイニングと呼ばれる手法で、書き手を特定する方法が試みられています。従来から行われてきた筆跡鑑定は、



ポリグラフ検査室にて

Profile—財津 亘

2003年、立命館大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了。2004年より現職。博士（文学）。専門は犯罪心理学、捜査心理学。

手書き文字がなければできませんが、テキストマイニングによる書き手の判別では、文章上の文体特徴などを分析するので、パソコンで作成した文章や電子メールの文章を誰が書いたのか特定することが可能となります。この手法は、計量文体学や計量言語学などが主な分野となりますが、一昔前に文章心理学と呼ばれた分野とも関連します。例えば、書き手によって、文章上の品詞の組み合わせが異なりますし、読点の打ち方や文節パターンが違うので、書き手を判別することが可能となります。

以上のように、犯罪に立ち向かうため、心理学が幅広く応用され、実際に犯人検挙などに貢献しています。最近では、物証の乏しい犯罪も増えつつある中、心理学を活用した犯罪捜査の需要は増々高まることと思います。今後も日夜研究に励み、社会に貢献できるように努めたいと思っています。